

施工パッケージ型積算方式について

1 施工パッケージ型積算方式の概要

- 「施工パッケージ型積算方式」は、あらかじめ、施工単位毎に設定された標準単価を補正して、佐賀県の積算単価として算出する積算方式です。
- 工事内訳書に計上する施工単位毎の単価について、これまでは、施工単価表で、機械運転費や労務費、材料費等をそれぞれの歩掛(数量)と単価により積み上げ、単位当たり単価としていましたが、施工パッケージ型積算方式では、国が公表する標準単価を用いて、そのベースとなる機械、労務・材料の東京単価に対して、佐賀地区の機械、労務、材料の各単価との比率により補正して求めた積算単価(佐賀)を用います。
- 共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の間接費は、従来の積算方式と変わりありません。
- 施工パッケージの「標準単価」は、現行の標準歩掛が基礎となっており、今後は、国において、工種毎に応札単価等の動向をモニタリングし、実際の施工状況等の変動を踏まえた上で必要に応じて改定されます。

2 施工パッケージ型積算方式の積算方法

- 今回の説明では、平成26年7月に適用開始した内容のものとなります。標準単価等については歩掛改訂の度に更新となりますのでご注意ください。

(1) 積算単価(佐賀)は、以下の補正式を用いて算出します。

《補正式(イメージ)》
例として、H26年7月としていますが、実際の積算には、その工事における各適用日の機労材の佐賀単価を使用して下さい!

H26.7 佐賀 積算単価

$$= \frac{\text{H25.4東京標準単価}}{\text{H25.4東京標準単価}} \times \left(K \times \frac{\text{H26.7佐賀機械単価}}{\text{H25.4東京機械単価}} + R \times \frac{\text{H26.7佐賀労務単価}}{\text{H25.4東京労務単価}} + Z \times \frac{\text{H26.7佐賀材料単価}}{\text{H25.4東京材料単価}} \right)$$

分子の佐賀単価は、設計書の単価適用日を採用

標準単価、分母の機労材単価は、次年度の基準改訂までは固定
平成26年度標準単価については、基準年月が平成25年4月のため、それぞれ「H25.4東京...」と表記しています。

K: 標準単価に占める機械費の構成割合
R: 標準単価に占める労務費の構成割合
Z: 標準単価に占める材料費の構成割合

(2) 補正式を構成する係数や単価の採用方法は以下のとおりです。
標準単価、機労材の構成比(機械: K、労務: R、材料: Z)

- (国土交通省) 国土技術政策総合研究所HP
「施工パッケージ型積算方式標準単価表【平成26年4月適用】」
- 一覧表から使用する「施工パッケージ」を選定する。
 - 使用する条件に見合う条件区分の列に掲載されている「標準単価」、「機労材構成比」を採用する。

東京機械単価のうち機械賃料、及び東京材料単価等

建設物価調査会 H P

『基準材料ベース単価【H26.4 適用（平成25年4月）】』

経済調査会 H P

『代表機労材規格一覧【H26.4 適用分（平成25年4月）】』

- ・ の標準単価表に掲載された賃料及び単価について、上記 2 資料から選定する。（ 2 資料は、種類毎に同一番号で記載されている）
- ・ 2 資料の平均値を採用する。（上 3 桁有効端数切り捨て、また、上 3 桁有効とした場合において、円未満の単価は、円未満切り捨て）
- ・ 1 資料にのみ掲載の場合はその単価を採用する。

東京機械単価のうち機械損料等

日本建設機械施工協会（出版物）

『建設機械等損料表【平成25年度版】』

- ・ の標準単価表に掲載された機械損料等を採用する。

東京労務単価

国土交通省 H P

『公共工事設計労務単価【平成25年度単価】』

の標準単価表に掲載された労務について、「関東13東京都」を採用する。

佐賀機械単価、佐賀労務単価、佐賀材料単価

これまでの積算方式における単価採用方法と同じ取扱い。

- ・ 佐賀単価は、設計書に示された単価適用日に基づき採用する。
- ・ 設計書の単価表に掲載された名称・規格に合致する価格を採用する。

3 施工パッケージ移行工種について

- 国土交通省において平成26年4月より適用の「施工パッケージ単価」209単価のうち、207個について、平成26年7月より導入しております。
 国の209個のうち2個は使用停止中のため、207個としていますが、うち26個は材料費であることから、実導入数は181個です。

N0	パッケージ名称【分類】
001	掘削【土工】
002	土砂等運搬【土工】
003	整地【土工】
004	路体（築堤）盛土【土工】
005	路床盛土【土工】
006	押土（ルーズ）【土工】
007	積込（ルーズ）【土工】
008	人力積込【土工】
009	転石破砕【土工】
材 010	土材料【土工】
材 011	残土等処分【土工】
012	床掘り【作業土工（床掘工）】
013	掘削補助機械搬入搬出【作業土工（床掘工）】
014	基面整正【作業土工（床掘工）】
015	舗装版破砕積込（小規模土工）【作業土工（床掘工）】
016	埋戻し【作業土工（埋戻工）】
017	タンバ締固め【作業土工（埋戻工）】
018	人肩運搬（積込～運搬～取卸し）土・石【人力運搬工】
019	人肩運搬（積込～運搬～取卸し）セメント等【人力運搬工】
020	人肩運搬（積込～運搬～取卸し）積ブロック類【人力運搬工】
021	人肩運搬（運搬～取卸し）【人力運搬工】
022	小車運搬（積込～運搬～取卸し）土・石【人力運搬工】
023	小車運搬（積込～運搬～取卸し）【人力運搬工】
024	小車運搬（積込～運搬～取卸し）積ブロック類【人力運搬工】
025	小車運搬（運搬～取卸し）【人力運搬工】
026	ベルトコンベア併用人力掘削（床掘り） 【人力土工（ベルトコンベア併用）】
027	ベルトコンベア併用人力積込【人力土工（ベルトコンベア併用）】
028	安定処理【安定処理工】
029	法面整形【法面整形工】
030	市松芝【芝付工】
031	吹付法面取壊し【吹付法面とりこわし工】
032	人工張芝【人工張芝工】
033	基礎砕石【基礎・裏込砕石工，基礎・裏込栗石工】
034	裏込砕石【基礎・裏込砕石工，基礎・裏込栗石工】
035	基礎栗石【基礎・裏込砕石工，基礎・裏込栗石工】
036	裏込栗石【基礎・裏込砕石工，基礎・裏込栗石工】

N0	パッケージ名称【分類】
037	採取小割【基礎・裏込砕石工，基礎・裏込栗石工】
038	コンクリートブロック積【コンクリートブロック積（張）工】
039	間知ブロック張【コンクリートブロック積（張）工】
040	平ブロック張【コンクリートブロック積（張）工】
041	連節ブロック張【コンクリートブロック積（張）工】
042	緑化ブロック積【コンクリートブロック積（張）工】
材 043	緑化ブロック（材料費）【コンクリートブロック積（張）工】
材 044	天端ブロック（材料費）【コンクリートブロック積（張）工】
045	胴込・裏込コンクリート【コンクリートブロック積（張）工】
046	胴込・裏込材（砕石）【コンクリートブロック積（張）工】
047	遮水シート張【コンクリートブロック積（張）工】
048	吸出し防止材（全面）設置【コンクリートブロック積（張）工】
049	植樹【コンクリートブロック積（張）工】
050	現場打基礎コンクリート【コンクリートブロック積（張）工】
051	天端コンクリート【コンクリートブロック積（張）工】
052	小型擁壁（A）【場所打擁壁工】
053	小型擁壁（B）【場所打擁壁工】
054	重力式擁壁【場所打擁壁工】
055	もたれ式擁壁【場所打擁壁工】
056	逆T型擁壁【場所打擁壁工】
057	L型擁壁【場所打擁壁工】
058	化粧型枠【場所打擁壁工】
材 059	化粧型枠（材料費）【場所打擁壁工】
材 060	ベアラインコンクリート（材料費）【場所打擁壁工】
061	プレキャスト擁壁設置【プレキャスト擁壁工】
062	ヒューム管（B形管）【排水構造物工】
063	ボックスカルバート【排水構造物工】
064	暗渠排水管【排水構造物工】
065	フィルター材【排水構造物工】
066	管（函）渠型側溝（製品長2m/個）【排水構造物工】
067	プレキャスト集水桝【排水構造物工】
材 068	プレキャスト集水桝（材料費）【排水構造物工】
069	鉄筋コンクリート台付管【排水構造物工】
070	プレキャストL形側溝（製品長0.6m/個）【排水構造物工】
071	プレキャストマンホール【排水構造物工】
072	PC管【排水構造物工】

No	パッケージ名称【分類】
073	コルゲートパイプ【排水構造物工】
074	コルゲートフリューム【排水構造物工】
075	現場打ち水路（本体）【排水構造物工（現場打ち水路）】
076	現場打ち集水溝・街渠溝（本体） 【排水構造物工（現場打ち集水溝・街渠溝）】
077	サンドマット【軟弱地盤処理工（サンドマット工）】
078	安定シート・ネット【軟弱地盤処理工（サンドマット工）】
079	粉体噴射攪拌【軟弱地盤処理工（粉体噴射攪拌（DJM工法））】
080	粉体噴射攪拌（移設）【軟弱地盤処理工（粉体噴射攪拌（DJM工法））】
081	粉体噴射攪拌（軸間変更） 【軟弱地盤処理工（粉体噴射攪拌（DJM工法））】
082	削孔（アンカー）【アンカー工（ロータリーパーカッション式）】
083	アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理（アンカー） 【アンカー工（ロータリーパーカッション式）】
084	グラウト注入（アンカー） 【アンカー工（ロータリーパーカッション式）】
085	ボーリングマシン移設（アンカー） 【アンカー工（ロータリーパーカッション式）】
086	足場工（アンカー）【アンカー工（ロータリーパーカッション式）】
材 087	アンカー（材料費）【アンカー工（ロータリーパーカッション式）】
088	石積取壊し（人力）【構造物とりこわし工】
089	コンクリートはつり【構造物とりこわし工】
090	積込（コンクリート殻）【構造物とりこわし工】
091	吸出し防止材設置【吸出し防止材設置工】
092	目地板【目地・止水板設置工】
093	止水板【目地・止水板設置工】
094	じゃかご【かご工】
095	ふとんかご【かご工】
096	止杭打込【かご工】
097	現場取卸（鋼桁）【現場取卸費】
098	現場取卸（P C 桁）【現場取卸費】
099	現場取卸（鋼管杭）【現場取卸費】
100	函渠【函渠工】
101	殻運搬【殻運搬】
102	コンクリート【コンクリート工】
103	モルタル練【コンクリート工】
104	型枠【型枠工】
材 105	撤去しない埋設型枠（材料費）【型枠工】
106	消波根固めブロック製作【消波根固めブロック工】
107	消波根固めブロック据付【消波根固めブロック工】
108	消波根固めブロック運搬【消波根固めブロック工】
109	消波根固めブロック仮置【消波根固めブロック工】
110	根固めブロック撤去【消波根固めブロック工（ブロック撤去工）】
111	散在塵芥収集【塵芥処理工】
112	運搬（散在塵芥処理）【塵芥処理工】
113	堆積塵芥収集（機械処理）【塵芥処理工】

No	パッケージ名称【分類】
114	堆積塵芥収集（人力処理）【塵芥処理工】
115	運搬（堆積塵芥処理）【塵芥処理工】
116	河床等掘削【機械土工（河床等掘削）】
117	軟弱土等運搬【機械土工（河床等掘削）】
118	巨石張（練）【巨石積（張）工】
119	巨石張（空）【巨石積（張）工】
120	巨石積（練）【巨石積（張）工】
121	巨石採取【巨石積（張）工】
材 122	巨石（材料費）【巨石積（張）工】
123	プレキャスト基礎【護岸基礎ブロック工】
材 124	プレキャスト基礎（材料費）【護岸基礎ブロック工】
125	中詰コンクリート【護岸基礎ブロック工】
126	かごマット設置【かごマット工】
127	野芝種子吹付【野芝種子吹付工】
128	被覆シート張【野芝種子吹付工】
129	養生（散水養生）【野芝種子吹付工】
130	袋詰玉石【袋詰玉石工】
131	笠コンクリートブロック【笠コンクリートブロック据付工】
材 132	笠コンクリートブロック（材料費）【笠コンクリートブロック据付工】
133	掘削（光ケーブル配管）【光ケーブル配管工】
134	埋戻し・締固め【光ケーブル配管工】
材 135	敷砂，保護砂（材料費）【光ケーブル配管工】
136	配管設置（埋設部）【光ケーブル配管工】
137	配管設置（露出部）【光ケーブル配管工】
材 138	配管支持金具（材料費）【光ケーブル配管工】
材 139	ブルボックス（材料費）【光ケーブル配管工】
材 140	可とう電線管（材料費）【光ケーブル配管工】
材 141	伸縮継手（材料費）【光ケーブル配管工】
材 142	ノーマルバンド（材料費）【光ケーブル配管工】
材 143	多孔保護管（材料費）【光ケーブル配管工】
144	ハンドホール【光ケーブル配管工】
145	掘削（砂防）【土工】
146	土砂等運搬（砂防）【土工】
147	押土（ルーズ）（砂防）【土工】
148	積込（ルーズ）（砂防）【土工】
149	不陸整正【路盤工】
150	下層路盤（車道・路肩部）【路盤工】
151	下層路盤（歩道部）【路盤工】
152	上層路盤（車道・路肩部）【路盤工】
153	上層路盤（歩道部）【路盤工】
154	基層（車道・路肩部）【アスファルト舗装工】

No	パッケージ名称【分類】
155	中間層（車道・路肩部）【アスファルト舗装工】
156	表層（車道・路肩部）【アスファルト舗装工】
157	基層（歩道部）【アスファルト舗装工】
158	中間層（歩道部）【アスファルト舗装工】
159	表層（歩道部）【アスファルト舗装工】
160	アスカープ【アスファルト舗装工】
161	排水性舗装・表層（車道・路肩部）【排水性アスファルト舗装工】
162	フィルター層【透水性アスファルト舗装工】
163	透水性アスファルト舗装【透水性アスファルト舗装工】
164	踏掛版【踏掛版】
165	基礎ブロック（立入防止柵）【立入り防止柵工】
166	金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）【立入り防止柵工】
167	支柱【立入り防止柵工】
材 168	支柱（材料費）【立入り防止柵工】
169	車止めポスト【車止めポスト設置工】
170	歩車道境界ブロック【路側工（据付け）】
171	地先境界ブロック【路側工（据付け）】
172	歩車道境界ブロック撤去【路側工（取外し）】
173	地先境界ブロック撤去【路側工（取外し）】
174	特殊ブロック舗装【特殊ブロック設置工】
175	排水樹【橋梁付属施設設置工】
176	橋名板取付【橋梁付属施設設置工】
177	橋梁用高欄【橋梁付属施設設置工】
材 178	橋梁用高欄一体式（材料費）【橋梁付属施設設置工】
179	飾り高欄【橋梁付属施設設置工】
材 180	飾り高欄（材料費）【橋梁付属施設設置工】
181	距離標【道路付属物設置工】
182	路面切削【路面切削工】
183	殻運搬（路面切削）【路面切削工】
184	舗装版破砕【舗装版破砕工】
185	舗装版切断【舗装版切断工】
186	素地調整【道路付属構造物塗替工】
187	付属構造物塗替【道路付属構造物塗替工】
188	路面清掃（路肩部・人力）【路面清掃工（人力清掃工）】
189	路面清掃（歩道等・人力）【路面清掃工（人力清掃工）】
190	側溝清掃（人力清掃工）【側溝清掃工（人力清掃工）】
191	ガードレール復旧【防護柵復旧工】
192	ガードパイプ復旧【防護柵復旧工】
193	舗装版破砕積込【電線共同溝工（C・C・BOX）】
194	床掘り【電線共同溝工（C・C・BOX）】
195	埋戻し・締固め【電線共同溝工（C・C・BOX）】

No	パッケージ名称【分類】
196	運搬（電線共同溝）【電線共同溝工（C・C・BOX）】
197	軽量鋼矢板設置・撤去【電線共同溝工（C・C・BOX）】
198	覆工板設置・撤去【電線共同溝工（C・C・BOX）】
199	管路材設置【電線共同溝工（C・C・BOX）】
材 200	受金具（材料費）【電線共同溝工（C・C・BOX）】
材 201	支持金具（材料費）【電線共同溝工（C・C・BOX）】
材 202	管路受台（スベータ）（材料費）【電線共同溝工（C・C・BOX）】
203	プレキャストボックスブロック設置【電線共同溝工（C・C・BOX）】
204	蓋設置【電線共同溝工（C・C・BOX）】
材 205	蓋（材料費）【電線共同溝工（C・C・BOX）】
206	排水管設置【橋梁排水管設置工】
207	現場発生品・支給品運搬【現場発生品及び支給品運搬】

4 施工パッケージ形積算方式のイメージ及び積算例

本 工 事 費 内 訳 書						
費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	明細単価番号	基準
○○工脚	1	式		12,341,400	Lv1	
◇◇	1	式		1,491,625	Lv2	
◇◇E	1	式		191,070	Lv3	
○○○○E	1	式		191,070	Lv1	
△△○○(○○○○)	330	m ²	579	191,070		
△△○○(○○○○) 条件・規格等①	1	m ²	123.5	123	P 1号	←施工パッケージ施工単価 1号
△△○○(○○○○) 条件・規格等②	1	m ²	156	156	施 1号	←従来(歩掛)施工単価 1号
○○○○E	1	式		1,300,555	Lv2	
○△◇E	1	式		1,300,555	Lv3	
○○△水路	1	式	1,300,555	1,300,555	Lv1	
○○○○ 条件・規格等①	123	m ³	234.6	28,855	P 2号	←施工パッケージ施工単価 2号
○○○○ 条件・規格等②	123	m ³	234.6	28,855	P 2号	
△△○○ 条件・規格等①	33	m	12,350	407,550	P 3号	←施工パッケージ施工単価 3号
△△○○ 条件・規格等②	33	m	12,350	407,550	P 3号	
○○○○ 条件・規格等①	70	m	12,315	861,150	施 2号	←従来(歩掛)施工単価 2号
○○○○ 条件・規格等②	70	m	12,315	861,150	施 2号	

円止め(未満切捨て)

施工パッケージの単価は、有効4桁、5桁以降切り上げ(ただし小数第2位まで)

単価 × 数量 = 計算値 → 金額
 234.6円 × 123m³ = 28,855.8円 → 28,855(円止め)

《補正式(イメージ)》

例として、H26年7月としていますが、実際の積算には、その工事における各適用日の機労材の佐賀単価を使用して下さい!

分子の佐賀単価は、設計書の単価適用日を採用

H26.7 佐賀 積算単価

$$= \frac{\text{H25.4東京標準単価}}{\left(K \times \frac{\text{H26.7佐賀機械単価}}{\text{H25.4東京機械単価}} + R \times \frac{\text{H26.7佐賀労務単価}}{\text{H25.4東京労務単価}} + Z \times \frac{\text{H26.7佐賀材料単価}}{\text{H25.4東京材料単価}} \right)}$$

標準単価、分母の機労材単価は、次年度の基準改訂までは固定

平成26年度標準単価については、基準年月が平成25年4月のため、それぞれ「H25.4東京...」と表記しています。

K: 標準単価に占める機械費の構成割合
 R: 標準単価に占める労務費の構成割合
 Z: 標準単価に占める材料費の構成割合

《下層路盤工の算定式(例)》

$$P' = P \times \left\{ \left[\frac{K1}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \frac{K2}{100} \times \frac{K2t'}{K2t} + \frac{K3}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right] \times \frac{K}{K1 + K2 + K3} + \left[\frac{R1}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \frac{R2}{100} \times \frac{R2t'}{R2t} \right] \times \frac{R}{R1 + R2} + \left[\frac{Z1}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \frac{Z2}{100} \times \frac{Z2t'}{Z2t} \right] \times \frac{Z}{Z1 + Z2} + \frac{100 - K - R - Z}{100} \right\}$$

機械・労務・材料その他、諸雑費などであり、施工パッケージ単価算出にあたっての端数調整

P'	積算単価(佐賀単価)
P	標準単価(東京単価)
K	標準単価における全機械(K1~K3、他)の構成比合計
K1~K3	標準単価における代表機械規格K1~K3の構成比
K1t~K3t	代表機械規格K1~K3の東京単価
K1t'~K3t'	代表機械規格K1~K3の佐賀単価
R	標準単価における全労務(R1~R2、他)の構成比合計
R1~R2	標準単価における代表労務規格R1~R2の構成比
R1t~R2t	代表労務規格R1~R2の東京単価
R1t'~R2t'	代表労務規格R1~R2の佐賀単価
Z	標準単価における全材料(Z1~Z2、他)の構成比合計
Z1~Z2	標準単価における代表材料規格Z1~Z2の構成比
Z1t~Z2t	代表材料規格Z1~Z2の東京単価
Z1t'~Z2t'	代表材料規格Z1~Z2の佐賀単価

施工パッケージ型積算方式（単価表：切抜）

【第〇号 施工パッケージ】←施工パッケージ施工単価の表示(本工事内訳書では、「P」号、と明細単価番号欄に表示：は番号)
 下層路盤(車道・路肩部) 175mm超200mm以下 ←施工単価名称・条件区分
 (再生クワッシャー) 40~0) ←施工条件等 算出した積算単価→ 円

名称・規格	金額構成比(%)	金額	構成比(%)	基準地区単価	積算地区単価	明細単価番号	基準
【機械】	『金額構成比(%)』及び『金額』については、『積算単価を算出した後に、『機券材集計』のために逆算した目安の数字であり、積算に使用する比率、金額等ではない。 ↑代表規格以外の機械経費		K				構成比(%) ・標準単価における各機券材の構成比 基準地区単価 ・標準単価における各機券材の東京単価 積算地区単価 ・標準単価の各機券材に対する佐賀単価
モーター(土工用・排対型1次基準) ブレード幅 3.1m			K1	K1t	K1t		
ローラー(ワガム・排対型1次基準) 質量 10~12t 幅幅2.1m			K2	K2t	K2t		
7付ローラー(普通型・排対型1次基準) 質量 8~20t			K3	K3t	K3t		
その他(機械) ↑代表規格以外の機械経費							
【労務】			R				これらの数値を使用して、算定式(補正式)により標準単価を補正し、積算単価を算出する。 P-6及びP-17を参照
運転手(特殊)			R1	R1t	R1t		
普通作業員			R2	R2t	R2t		
その他(労務) ↑代表規格以外の労務経費							
【材料】			Z				
再生クワッシャーラン RC-40			Z1	Z1t	Z1t		
軽油 バトロール給油(2~4t 1車)			Z2	Z2t	Z2t		

【第〇号 施工パッケージ】 (統 括) ←単価表が複数ページになる場合の表示
 下層路盤(車道・路肩部) 175mm超200mm以下
 (再生クワッシャー) 40~0) 円

名称・規格	金額構成比(%)	金額	構成比(%)	基準地区単価	積算地区単価	明細単価番号	基準
その他(材料) ↑代表規格以外の材料経費							
【端数調整】 ↑諸雑費等(構成比を100%とする為の端数処理)							
【条件】 [J1] = 3 平均厚さ 175mm超200mm以下 [J2] = 3 材料 再生クワッシャー 40~0							←選定条件
『基準地区単価』及び『積算地区単価』の端数処理(有効桁)の考え方は、県土づくり本部設計単価決定要領により算出する。							
施工パッケージ単価表の金額(算出した積算単価)は、有効数字4桁、5桁以降切り上げとする。 (ただし小数第2位まで)							
施工パッケージ単価表については、従来の積上(歩掛)単価表と違い、この表により積上げて施工単価を算出するものではなく、ここにある条件や機券材の数値(構成比(%))、基準地区単価、積算地区単価を使用して、算定式(補正式)により、国で定められた『標準単価』を補正し、積算単価を算出するものです。							

1. 施工名称・条件区分をもとに、国の『施工パッケージ型積算方式標準単価表』から、これに見合う標準単価を選定する。
2. 単価表の『名称・規格等』には、積算に使用する佐賀単価の名称や規格が表示される。
3. 『その他(機械)』、『その他(労務)』、『その他(材料)』、『端数調整』は、積算に直接使用されるものではなく、施工パッケージ単価算出の端数調整に用いられる。

「施工パッケージ型積算方式標準単価表」
算定式にある標準単価、各構成比を標準単価表から採用

< 国土技術政策総合研究所 H P >

「施工パッケージ型積算方式 国における新たな積算方式」ををクリック

「施工パッケージ型積算方式標準単価表(H26.4適用)」ををクリック
PDF版には単価表の他に説明文等が含まれています。
計算等に使用するには、excel版が便利です。

【標準単価(平成26年4月適用)】

NEW!	▶ 施工パッケージ型積算方式標準単価表(H26.4適用)	(2014.06)
	※H26.8.30訂正版	
NEW!	▶ 施工パッケージ型積算方式標準単価表(H26.4適用exce版)	(2014.06)
	※H26.8.30訂正版	
NEW!	▶ 施工パッケージ型積算方式標準単価表(H26.4適用)正誤表	(2014.06)
	▶ 東日本大震災の被災地で適用する施工パッケージ標準単価表(H26.4適用)	(2014.03)
	▶ 東日本大震災の被災地で適用する施工パッケージ標準単価表(H26.4適用exce版)	(2014.03)
	▶ 施工パッケージ型積算方式標準単価表(H26.4適用)改正箇所	(2014.03)
	▶ 代表材料規格の標準単価作成方法について(H26.4適用)	(2014.03)
	【その他】	
	▶ 施工パッケージ型積算方式について(H26版説明資料)	(2014.05)

この一冊はPDF形式のファイルとなっております。PDFファイルをWebブラウザ上で正常に表示できません。こちらをご参照下さい。
古いバージョンの『Adobe Acrobat Reader』だと、正常に表示されないおそれがありますので、最新バージョンをダウンロードを推奨します。

下層路盤（車道・路肩）：再生クラッシュヤラン：t=200mmの例
 『施工パッケージ型積算方式標準単価表（H26.4適用）』

No.150 【下層路盤（車道・路肩部）】

積算単位：m²

条件区分	地方村構成比											
	材料	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8	K9		
平均厚さ 75mm以下	566.81	9.59	3.52	2.73	2.55	18.42	9.62	7.29	-	71.99	69.49	2.30
125mm以下	763.66	7.10	2.61	2.02	1.89	12.66	7.14	5.40	-	79.24	77.38	1.71
175mm以下	911.31	5.95	2.19	1.69	1.56	11.44	5.99	4.52	-	82.61	81.06	1.43
200mm以下	1,182.8	9.17	3.37	2.61	2.44	17.64	9.22	6.97	-	73.19	70.60	2.30

設計書の単価表の条件に相当する条件区分を選定する。

設計書の単価表の条件に相当する条件区分を選定し、その配列にある標準単価、代表機材規格等を採用する。

条件区分（平均厚さ）

- 1 75 mm超 2 0 mm以下を選定する。

種別	種別記号	単価・構成比	算定式入力先
標準単価	P	911.31	
機械構成比合計	K	5.95	
モータグレータ構成比	K1	2.19	
ロードローラ構成比	K2	1.69	
タイヤローラ構成比	K3	1.58	
労務構成比合計	R	11.44	
特殊運転手構成比	R1	5.98	
普通作業員構成比	R2	4.52	
材料構成比合計	Z	82.61	
クラッシュヤラン構成比	Z1	81.06	
軽油構成比	Z2	1.43	

条件区分	地方村構成比										備考
	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8	K9		
モータグレータ【土工用・抽出ガス対策型（第1次基準型）】ブレード幅3.1m	ロードローラ【ワカダム・抽出ガス対策型（第1次基準型）】 量 10~12t	タイヤローラ【普通型・抽出ガス対策型（第1次基準型）】 量 8~20t	特殊運転手	普通作業員	-	-	-	-	クラッシュヤラン C-40	軽油 1, 2番 バトロール給油	-
モータグレータ【土工用・抽出ガス対策型（第1次基準型）】ブレード幅3.1m	ロードローラ【ワカダム・抽出ガス対策型（第1次基準型）】 量 10~12t	タイヤローラ【普通型・抽出ガス対策型（第1次基準型）】 量 8~20t	特殊運転手	普通作業員	-	-	-	-	クラッシュヤラン C-40	軽油 1, 2番 バトロール給油	-
モータグレータ【土工用・抽出ガス対策型（第1次基準型）】ブレード幅3.1m	ロードローラ【ワカダム・抽出ガス対策型（第1次基準型）】 量 10~12t	タイヤローラ【普通型・抽出ガス対策型（第1次基準型）】 量 8~20t	特殊運転手	普通作業員	-	-	-	-	クラッシュヤラン C-40	軽油 1, 2番 バトロール給油	-
モータグレータ【土工用・抽出ガス対策型（第1次基準型）】ブレード幅3.1m	ロードローラ【ワカダム・抽出ガス対策型（第1次基準型）】 量 10~12t	タイヤローラ【普通型・抽出ガス対策型（第1次基準型）】 量 8~20t	特殊運転手	普通作業員	-	-	-	-	クラッシュヤラン C-40	軽油 1, 2番 バトロール給油	-

「東京単価（機械、材料）」
 算定式にある東京単価は(一財)建設物価調査会の「基準材料ベース単価」
 及び(一財)経済調査会の「代表機労材規格一覧」から採用する。

< (一財)建設物価調査会HP >

「建設Navi」をクリック

「施工パッケージ積算支援室」の>をクリック

次ページへ

公正で中立な調査活動と
信頼される
社会経済

「**施工パッケージ型
積算方式について**」
をクリック

一般財団法人 経済調査会について →

事業内容はこちら →
Acquisition Contents

積算資料電子版
施工パッケージ型
積算方式について

出版物・講習会はこちら
Book/Events/Workshops

2014.08.06 新着情報
「**施工パッケージ型積算方式について**」の概要及び導入支援を行っています。

2014.07.31 委員会「電子化」の取組状況を報告し、今後の取組について協議を行いました。

2014.07.14 「日本建築経済協会」より「**施工パッケージ型積算方式について**」に関する資料が提供されました。

2014.07.02 「**施工パッケージ型積算方式について**」の概要及び導入支援を行っています。

2014.06.20 代表機材労務規格一覧 H26.4月適用分 [PDF]

2014.03.26 代表機材労務規格一覧 H26.4月適用分 [PDF]

2013.10.01 代表機材労務規格一覧 H25.10月適用分 [PDF]

2012.10.01 代表機材労務規格一覧 H24.10月適用分 [PDF]

2014.06.30 施工パッケージ型積算方式に関する最新情報 (第23報) [PDF]

2014.03.09 施工パッケージ型積算方式に関する最新情報 (第22報) [PDF]

「**施工パッケージ型積算方式について**」
経済調査会では「施工パッケージ型積算方式」の概要及び導入支援を行っております。具体的な実施内容については、積算技術部技術調査室までお電話 (03-3542-9473) またはメールにてお問い合わせください。

新着情報
2014.06.20 代表機材労務規格一覧 H26.4月適用分 [PDF]

2014.03.26 代表機材労務規格一覧 H26.4月適用分 [PDF]

2013.10.01 代表機材労務規格一覧 H25.10月適用分 [PDF]

2012.10.01 代表機材労務規格一覧 H24.10月適用分 [PDF]

2014.06.30 施工パッケージ型積算方式に関する最新情報 (第23報) [PDF]

2014.03.09 施工パッケージ型積算方式に関する最新情報 (第22報) [PDF]

施工パッケージ型積算方式とは？
「施工パッケージ型積算方式」は、「ユニットプライス型積算方式」の経路を改良した新たな積算方式です。
従来の積上げ積算方式では、直接工費を機械労務・労務費・材料費に分けて積算していましたが、これを一つの「施工パッケージ」として積算する方式です。(間接工費については、従来同様、率式等により積算します。)

○施工パッケージ型積算方式の取組について
(国土交通省のホームページにジャンプします。)

具体的な積算方法は？
施工パッケージ型積算方式では、経路別の単価合算方式による労務単価と

次ページへ

「東京単価（労務）」
 算定式の東京単価は国土交通省のHPで公表されている
 「公共工事設計労務単価（H25版）」を適用する

< 国土交通省HPより >



「平成25年度
 公共工事設計労務単価について」

平成25年4月から適用する公共工事設計労務単価

- 1 公共工事設計労務単価は、公共工事の工事費の積算に用いるためのものであり、下請契約等における労務単価や雇用契約における労働者への支払い賃金を拘束するものではない。
- 2 本単価は、所定労働時間内8時間当たりの単価である。
- 3 時間外、休日及び深夜の労働についての割増賃金、各職種の通常の作業条件または作業内容を超えた労働に対する手当等は含まれていない。
- 4 本単価は労働者に支払われる賃金に係わるものであり、現場管理費(法定福利費の事業主負担額、研修訓練等に要する費用等)及び一般管理費等の諸経費は含まれていない。(例えば、交通誘導員の単価については、警備会社に必要な諸経費は含まれていない。)
- 5 法定福利費の事業主負担額、研修訓練等に要する費用等は、積算上、現場管理費等に含まれている。

地方連絡協議会名	都道府県名	特殊作業員	普通作業員	整作業員	造園工	法面工	とび工	石工	ブロック工	電工	鉄筋工
	07 福島県	(19,400)	(15,000)	(12,900)	17,000	18,900	17,900	20,900	20,100	16,900	18,600
関東	08 茨城県	18,100	16,100	11,300	18,200	19,400	20,600	22,900	21,300	18,500	20,300
	09 栃木県	18,000	15,800	11,400	18,000	20,500	19,200	22,900	21,300	18,200	20,000
	10 群馬県	18,000	16,100	12,300	17,800	21,400	18,300	22,300	21,000	17,100	19,400
	11 埼玉県	19,200	16,400	12,300	18,000	20,900	21,400	22,700	21,200	19,500	21,700
	12 千葉県	19,200	16,400	12,200	18,700	20,800	22,200	23,100	21,500	20,600	22,500
	13 東京都	20,600	17,200	12,800	18,700	21,800	22,000	23,100	21,900	21,700	22,200
	14 神奈川県	20,900	17,000	12,500	18,300	20,800	22,000	22,900	21,600	19,900	21,000
	19 山梨県	19,200	17,400	12,000	18,200	21,200	19,500	22,900	21,600	20,200	20,300

地方連絡協議会名	都道府県名	鉄骨工	塗装工	溶接工	運転手(特殊)	運転手(一般)	潜かん工	潜かん世話役	さく岩工	トンネル特殊工	トンネル作業員
北海道	01 北海道	16,400	16,000	17,600	15,900	17,900	24,000	20,500	19,600	22,100	19,400
	07 北海道	16,000	17,300	17,300	(10,100)	(10,300)	20,300	19,300	20,100	19,100	16,100
関東	08 茨城県	18,900	20,100	22,100	18,800	16,200	23,900	28,400	21,700	22,900	19,400
	09 栃木県	19,400	20,800	23,000	17,700	16,900	23,900	28,400	21,700	23,300	19,400
	10 群馬県	19,000	18,100	21,800	18,000	15,200	23,900	28,400	21,700	24,400	19,400
	11 埼玉県	20,200	21,400	22,800	20,700	17,900	23,900	28,400	21,700	22,900	19,400
	12 千葉県	20,400	21,600	22,800	19,800	17,800	23,900	28,400	21,700	22,700	19,400
	13 東京都	20,800	22,700	24,300	20,200	16,700	23,900	28,400	21,700	22,500	19,400
	14 神奈川県	20,800	22,700	25,000	21,200	18,000	23,900	28,400	21,700	22,500	19,400
	19 山梨県	20,900	21,400	23,800	19,700	17,000	23,900	28,400	21,700	23,900	19,400

R 1 t : 特殊運転手 = 20 , 200 算定式の R 1 t : へ入力
 R 2 t : 普通作業員 = 17 , 200 算定式の R 2 t : へ入力

「佐賀単価」

従来の単価採用方法により決定

佐賀県「土木・森林土木工事設計基礎単価表」、「建設機械等損料算定表」、
「公共工事設計労務単価表」による
佐賀県県土づくり本部設計単価決定要領による。

< 建設機械等損料表より >

《本事例はH26年7月30日時点適用の「建設機械等損料算定表 平成26年度版
(平成26年7月 佐賀県県土づくり本部)》

K 1 t' : モータグレーダ[土工用・排対型(1次)]ブレード幅3.1m

= 15,500・・・算定式のK 1 t' : ヘ入力

K 2 t' : ロードローラ[マカダム・排対型(1次)]質量10~12t

= 11,900・・・算定式のK 2 t' : ヘ入力

K 3 t' : タイヤローラ[普通型・排対型(1次)]質量8~20t

= 11,000・・・算定式のK 3 t' : ヘ入力

< 公共工事設計労務単価より > (本事例は平成26年度単価)

R 1 t' : 特殊運転手 = 18,800・・・算定式のR 1 t' : ヘ入力

R 2 t' : 普通作業員 = 13,300・・・算定式のR 2 t' : ヘ入力

< 土木・森林土木工事設計基礎単価表より >

《本事例はH26年7月30日時点適用の「佐賀地区」単価》

Z 1 t' : 再生クラッシャーラン 舗装用 40mm以下 (設計書の条件の材料)

= 2,350・・・算定式のZ 1 t' : ヘ入力

Z 2 t' : 軽油 1.2号 パトロール給油

= 132・・・算定式のZ 2 t' : ヘ入力

これまでに求めた各係数、単価を算定式へ代入し、積算単価を算出

下層路盤(車道・路肩) : 再生クラッシャーラン : t=200mmの積算単価(佐賀単価)

$$P' = 911.31 \times \left\{ \left[\frac{2.19}{100} \times \frac{15,500}{15,300} + \frac{1.69}{100} \times \frac{11,900}{11,700} + \frac{1.58}{100} \times \frac{11,000}{10,800} \right] \times \frac{5.95}{2.19 + 1.69 + 1.58} \right. \\ \left. + \left[\frac{5.98}{100} \times \frac{18,800}{20,200} + \frac{4.52}{100} \times \frac{13,300}{17,200} \right] \times \frac{11.44}{5.98 + 4.52} \right. \\ \left. + \left[\frac{81.06}{100} \times \frac{2,350}{3,100} + \frac{1.43}{100} \times \frac{132}{121} \right] \times \frac{82.61}{81.06 + 1.43} \right. \\ \left. + \frac{100 - 5.95 - 11.44 - 82.61}{100} \right\}$$

$$= 720.087441274184 = 720.10$$

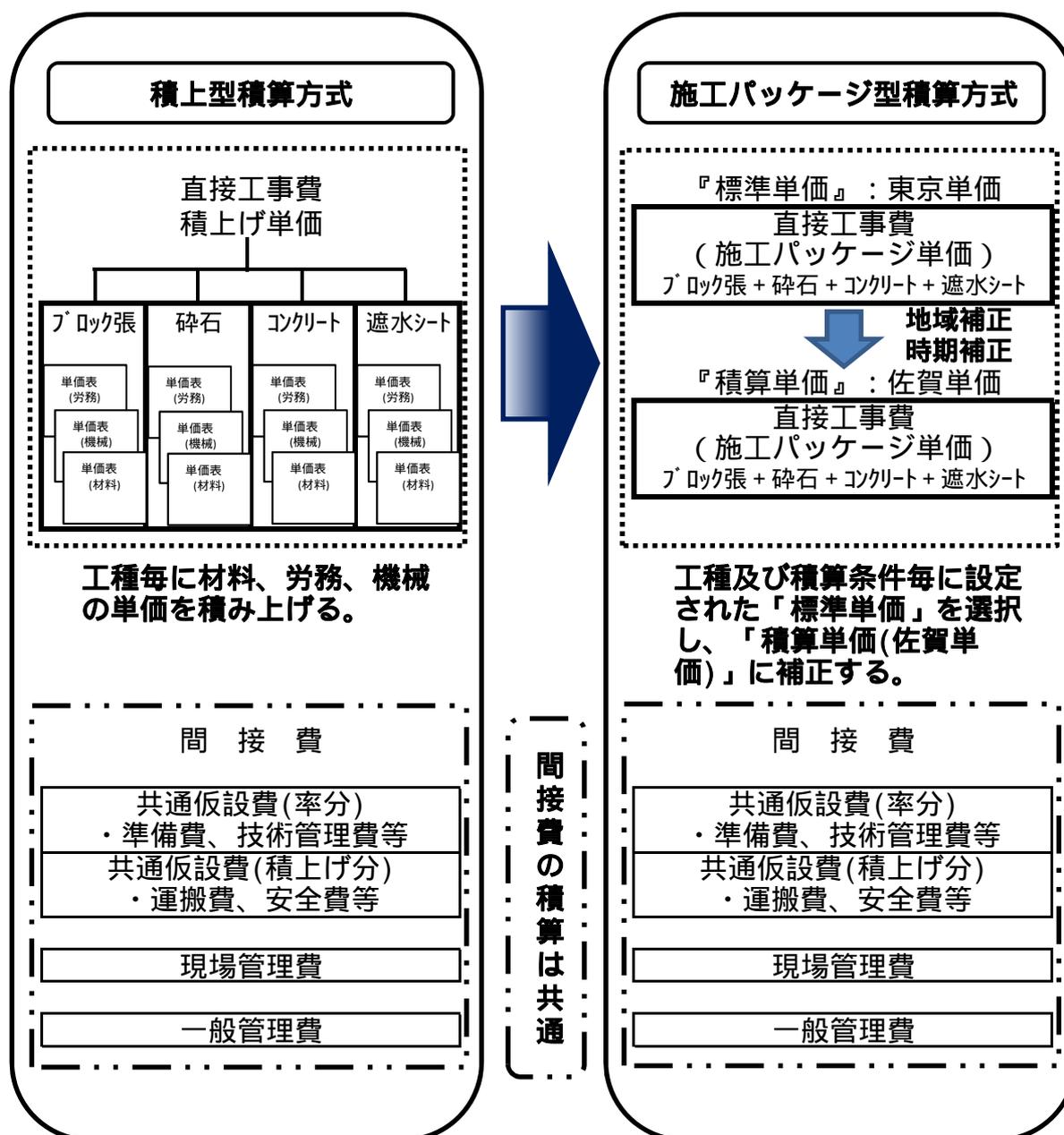
$$= 720.1 \text{ 円} / \text{m}^3$$

施工パッケージ単価表金額は、有効数字4桁、5桁目以降切り上げ。

施工パッケージ型積算方式の特徴

「施工パッケージ型積算方式」とは、舗装工や擁壁工、ブロック張工等の工種や現場条件毎に、国が公表する標準単価を、佐賀県の単価として補正して積算する方式であり、共通仮設費や現場管理費、一般管理費などの間接費については、これまでと同様の取扱いとなります。

【ブロック張工の事例】



Ⅲ. 標準単価から積算単価への補正方法

Ⅲ-1. 補正式

標準単価は、東京地区(東京 17 区)における基準年月(平成 25 年 4 月)の施工単位当たりの単価であることから、地域および時期の違いによる補正を行い、積算単価にします。

標準単価(P)から積算単価(P')への補正は、各施工パッケージの機労材構成比を用い、下記の式により算出します。

$$P' = P \times \left\{ \left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{Kr}{K1r + \dots + K3r} \right. \\ + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{Rr}{R1r + \dots + R4r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + \dots + Z4r} + \frac{Sr}{100} \times \frac{St'}{St} \\ \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Sr}{100} \right\}$$

P'	: 積算単価(積算地区、積算年月)
P	: 標準単価(東京地区、基準年月)
Kr	: 標準単価における全機械(K1~K3,他)の構成比合計
K1r~K3r	: 標準単価における代表機械規格 K1~3 の構成比
K1t~K3t	: 代表機械規格 K1~3 の単価(東京地区、基準年月)
K1t'~K3t'	: 代表機械規格 K1~3 の単価(積算地区、積算年月)
Rr	: 標準単価における全労務(R1~R4,他)の構成比合計
R1r~R4r	: 標準単価における代表労務規格 R1~4 の構成比
R1t~R4t	: 代表労務規格 R1~4 の単価(東京地区、基準年月)
R1t'~R4t'	: 代表労務規格 R1~4 の単価(積算地区、積算年月)
Zr	: 標準単価における全材料(Z1~Z4,他)の構成比合計
Z1r~Z4r	: 標準単価における代表材料規格 Z1~4 の構成比
Z1t~Z4t	: 代表材料規格 Z1~4 の単価(東京地区、基準年月)
Z1t'~Z4t'	: 代表材料規格 Z1~4 の単価(積算地区、積算年月)
Sr	: 標準単価における市場単価 S の構成比
St	: 市場単価 S の所与条件における単価(東京地区、基準年月)
St'	: 市場単価 S の所与条件における単価(積算地区、積算年月)

標準単価から積算単価への補正方法は、地域および時期の違いによる補正(下記①)に加え、下記②~⑤の補正が必要な場合があります。

- ① 地域および時期の違いによる補正
- ② 条件区分に定めのない規格により積算する場合
- ③ 条件区分に実数入力を行い積算する場合
- ④ 時間外割増賃金や豪雪地域補正等を行う場合
- ⑤ 支給品や無償貸付機械等がある場合

Ⅲ-2. 標準単価から積算単価への計算例

①地域および時期の違いによる補正の計算例

(施工パッケージ型積算基準の条件区分に基づき積算する場合)

- ・施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・条件区分：45～55mm、1.4m以上、密粒度 As20、タックコート PK-4
- ・標準単価：1,549.0 円

→ 名古屋地区の H26.4 における積算単価を算出

表 1：表層（車道・路肩部）の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H25.4)(円)	名古屋(H26.4)(円)
K		3.45	—	—
K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型] 舗装幅 2.4～6.0m [排出ガス対策型 (第2次基準値)]	1.85	38,200	38,200
K2	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 8～20t	0.53	10,800	10,800
K3	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 10～12t	0.52	11,700	11,700
R		8.20	—	—
R1	普通作業員	2.89	17,200	17,000
R2	特殊作業員	1.72	20,600	19,800
R3	特殊運転手	1.68	20,200	19,500
R4	土木一般世話役	0.60	21,900	21,600
Z		88.35	—	—
Z1	アスファルト混合物密粒度 AS 混合物(20)	85.30	10,500	11,100
Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.51	90.7	94.5
Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	0.46	121	124

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

$$P'(\text{名古屋 H26.4}) = 1,549.0$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.85}{100} \times 38,200 + \frac{0.53}{100} \times 10,800 + \frac{0.52}{100} \times 11,700 \right) \times \frac{3.45}{1.85 + 0.53 + 0.52} \right. \\
 & + \left(\frac{2.89}{100} \times 17,000 + \frac{1.72}{100} \times 19,800 + \frac{1.68}{100} \times 19,500 + \frac{0.60}{100} \times 21,600 \right) \times \frac{8.20}{2.89 + 1.72 + 1.68 + 0.60} \\
 & + \left(\frac{85.30}{100} \times 11,100 + \frac{2.51}{100} \times 94.5 + \frac{0.46}{100} \times 124 \right) \times \frac{88.35}{85.30 + 2.51 + 0.46} \\
 & \left. + \frac{100 - 3.45 - 8.20 - 88.35}{100} \right\} = 1,623.30266532493 \dots \approx \mathbf{1,624}(\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目以降切り上げ。

②条件区分に定めのない規格により積算する場合の計算例

- ・施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・条件区分：45～55mm、1.4m以上、**再生密粒度 As20**、タックコート PK-4
- ・標準単価：1,549.0 円

→ 名古屋地区の H26.4 における積算単価を算出

表 2：表層（車道・路肩部）の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H25.4)(円)	名古屋(H26.4)(円)
K		3.45	—	—
K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型] 舗装幅 2.4～6.0m [排出ガス対策型 (第2次基準値)]	1.85	38,200	38,200
K2	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 8～20t	0.53	10,800	10,800
K3	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 10～12t	0.52	11,700	11,700
R		8.20	—	—
R1	普通作業員	2.89	17,200	17,000
R2	特殊作業員	1.72	20,600	19,800
R3	特殊運転手	1.68	20,200	19,500
R4	土木一般世話役	0.60	21,900	21,600
Z		88.35	—	—
Z1	アスファルト混合物密粒度 AS 混合物(20)	85.30	10,500	<u>9,650</u> (再生密粒度 As20)
Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.51	90.7	94.5
Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	0.46	121	124

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

$$P'(\text{名古屋 H26.4}) = 1,549.0$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.85}{100} \times \frac{38,200}{38,200} + \frac{0.53}{100} \times \frac{10,800}{10,800} + \frac{0.52}{100} \times \frac{11,700}{11,700} \right) \times \frac{3.45}{1.85 + 0.53 + 0.52} \right. \\
 & + \left(\frac{2.89}{100} \times \frac{17,000}{17,200} + \frac{1.72}{100} \times \frac{19,800}{20,600} + \frac{1.68}{100} \times \frac{19,500}{20,200} + \frac{0.60}{100} \times \frac{21,600}{21,900} \right) \times \frac{8.20}{2.89 + 1.72 + 1.68 + 0.60} \\
 & + \left(\frac{85.30}{100} \times \frac{9,650}{10,500} + \frac{2.51}{100} \times \frac{94.5}{90.7} + \frac{0.46}{100} \times \frac{124}{121} \right) \times \frac{88.35}{85.30 + 2.51 + 0.46} \\
 & \left. + \frac{100 - 3.45 - 8.20 - 88.35}{100} \right\} = 1,440.67247178724 \dots \approx \mathbf{1,441}(\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。

③条件区分に実数入力を行い積算する場合の計算例

- ・施工パッケージ名称：安定処理
- ・条件区分：バックホウ、構造物基礎、1m を超え 2m 以下、**7.00t/100m²**
- ・標準単価：2,032.3 円

→ 名古屋地区の H26.4 における積算単価を算出

表 3：安定処理の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H25.4)(円)	名古屋(H26.4)(円)
K		9.46	—	—
K1	バックホウ [クローラ型・クレーン機能付き・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9t 吊 (*賃料)	8.17	9,840	10,600
K2	振動ローラ [ハンドガイド式]質量 0.8~1.1t (*賃料)	1.29	1,560	1,590
R		53.13	—	—
R1	土木一般世話役	14.59	21,900	21,600
R2	特殊作業員	13.69	20,600	19,800
R3	特殊運転手	13.42	20,200	19,500
R4	普通作業員	11.43	17,200	17,000
Z		37.41	—	—
Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・1トンパック(5.25t/100m ²)	31.00	63,000 (12,000×5.25t)	82,600 (11,800×7.00t)
Z2	軽油 1.2号 バトロール給油	6.41	121	124

※機械単価、労務単価、材料単価は仮想の単価とする。

$$P'(\text{名古屋 H26.4}) = 2,032.3$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{8.17}{100} \times \frac{10,600}{9,840} + \frac{1.29}{100} \times \frac{1,590}{1,560} \right) \times \frac{9.46}{8.17 + 1.29} \right. \\
 & + \left(\frac{14.59}{100} \times \frac{21,600}{21,900} + \frac{13.69}{100} \times \frac{19,800}{20,600} + \frac{13.42}{100} \times \frac{19,500}{20,200} + \frac{11.43}{100} \times \frac{17,000}{17,200} \right) \times \frac{53.13}{14.59 + 13.69 + 13.42 + 11.43} \\
 & + \left(\frac{31.00}{100} \times \frac{82,600}{63,000} + \frac{6.41}{100} \times \frac{124}{121} \right) \times \frac{37.41}{31.00 + 6.41} \\
 & \left. + \frac{100 - 9.46 - 53.13 - 37.41}{100} \right\} = 2,217.84338158199 \dots \approx \mathbf{2,218(\text{円}/\text{m}^2)}
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。

④時間外割増賃金や豪雪補正等の補正を行う場合の計算例

(時間外割増賃金による補正の計算例)

- ・施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・条 件 区 分：45～55mm、1.4m 以上、密粒度 As20、タックコート PK-4
- ・標 準 単 価：1,549.0 円

→ 名古屋地区の H26.4 おける 労務費 20%割増 の積算単価を算出

表 4：表層（車道・路肩部）の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H25.4)(円)	名古屋(H26.4)(円)	
K		3.45	—	—	
	K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型] 舗装幅 2.4～6.0m [排出ガス対策型 (第2次基準値)]	1.85	38,200	38,200
	K2	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 8～20t	0.53	10,800	10,800
	K3	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 10～12t	0.52	11,700	11,700
R		8.20	—	—	
	R1	普通作業員	2.89	17,200	20,400 (17,000×1.2)
	R2	特殊作業員	1.72	20,600	23,760 (19,800×1.2)
	R3	特殊運転手	1.68	20,200	23,400 (19,500×1.2)
	R4	土木一般世話役	0.60	21,900	25,920 (21,600×1.2)
Z		88.35	—	—	
Z	Z1	アスファルト混合物密粒度 AS 混合物(20)	85.30	10,500	11,100
	Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.51	90.7	94.5
	Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	0.46	121	124

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

P'(名古屋 H26.4) = 1,549.0

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.85}{100} \times \frac{38,200}{38,200} + \frac{0.53}{100} \times \frac{10,800}{10,800} + \frac{0.52}{100} \times \frac{11,700}{11,700} \right) \times \frac{3.45}{1.85 + 0.53 + 0.52} \right. \\
 & + \left(\frac{2.89}{100} \times \frac{20,400}{17,200} + \frac{1.72}{100} \times \frac{23,760}{20,600} + \frac{1.68}{100} \times \frac{23,400}{20,200} + \frac{0.60}{100} \times \frac{25,920}{21,900} \right) \times \frac{8.20}{2.89 + 1.72 + 1.68 + 0.60} \\
 & + \left(\frac{85.30}{100} \times \frac{11,100}{10,500} + \frac{2.51}{100} \times \frac{94.5}{90.7} + \frac{0.46}{100} \times \frac{124}{121} \right) \times \frac{88.35}{85.30 + 2.51 + 0.46} \\
 & \left. + \frac{100 - 3.45 - 8.20 - 88.35}{100} \right\} = 1,648.09113035957 \dots \approx \mathbf{1,649}(\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目以降切り上げ。

⑤支給品や無償貸付機械等がある場合の計算例
(支給品がある場合の補正の計算例)

- ・施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・条件区分：45～55mm、1.4m以上、再生密粒度 As20、タックコート PK-4
- ・標準単価：1,549.0 円

→ 名古屋地区の H26.4 におけるアスファルト混合物が支給された場合の施工パッケージ単位当たりの支給品費および支給品費が控除された積算単価を算出

表5：表層（車道・路肩部）の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H25.4)(円)	名古屋(H26.4)(円)
K		3.45	—	—
K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型] 舗装幅 2.4～6.0m [排出ガス対策型 (第2次基準値)]	1.85	38,200	38,200
K2	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 8～20t	0.53	10,800	10,800
K3	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 10～12t	0.52	11,700	11,700
R		8.20	—	—
R1	普通作業員	2.89	17,200	17,000
R2	特殊作業員	1.72	20,600	19,800
R3	特殊運転手	1.68	20,200	19,500
R4	土木一般世話役	0.60	21,900	21,600
Z		88.35	—	—
Z1	アスファルト混合物密粒度 AS 混合物(20)	<u>85.30</u>	<u>10,500</u>	<u>9,650</u> (再生密粒度 As20 (支給品))
Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.51	90.7	94.5
Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	0.46	121	124

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

$$\text{支給品費} = 1,549.0 \times \frac{85.30}{100} \times \frac{9,650}{10,500} = 1,214.33486190476 \dots \approx \mathbf{1,214(\text{円}/\text{m}^2)}$$

※支給品費は 1,000 円以上の場合、円未満切り捨て。

1,000 円未満の場合は、小数位含め有効数字 4 桁切り捨て。ただし、小数第 2 位までとし、3 位以下は切り捨てる。

$$\begin{aligned} \text{支給品費が控除された積算単価} &= (\text{端数調整なしの積算単価}) - (\text{端数調整なしの支給品費}) \\ &= 1,440.67247178724 \dots - 1,214.33486190476 \dots = 226.33760988248 \dots \approx \mathbf{227(\text{円}/\text{m}^2)} \end{aligned}$$

※1. 支給品費が控除された積算単価は、積算単価が円単位なので、円止め（小数第 1 位切り上げ）

※2. 端数調整なしの積算単価（1,440.67247178724...）は「②条件区分に定めのない規格により積算する場合の計算例」内の計算式を参照

IV. 物価変動に伴う標準単価および機労材構成比の改定

施工パッケージ標準単価の設定は、各施工パッケージ単価の条件区分ごとに収集した合意単価及び応札者単価を基に実態調査結果を踏まえ設定しますが、複数年の施工パッケージ単価の傾向や施工状況調査による実際の施工状況等の変動も踏まえながら設定することとしているため、「平成26年度 施工パッケージ型積算方式標準単価表」については、「平成25年度 施工パッケージ型積算方式標準単価表」に対して物価変動の反映のみを行うこととし、使用する資材、労務、機械経費単価の基準年月を更新（平成24年9月→平成25年4月）しています。

○物価変動の反映例

- ・施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・条件区分：45～55mm、1.4m以上、密粒度As20、タックコートPK-4
- ・標準単価：1525.9円

	規格	構成比 (%)	東京(H24.9) (円)	東京(H25.4) (円)	新構成比 (%)
K		3.52	—	—	3.45
K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型] 舗装幅 2.4～6.0m [排出ガス対策型 (第2次基準値)]	1.88	38,200	38,200	1.85
K2	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 8～20t	0.54	10,800	10,800	0.53
K3	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 10～12t	0.53	11,700	11,700	0.52
R		6.96	—	—	8.20
R1	普通作業員	2.39	14,000	17,200	2.89
R2	特殊作業員	1.47	17,300	20,600	1.72
R3	特殊運転手	1.44	17,100	20,200	1.68
R4	土木一般世話役	0.53	19,100	21,900	0.60
Z		89.52	—	—	88.35
Z1	アスファルト混合物密粒度 AS 混合物(20)	86.53	10,500	10,500	85.30
Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.49	88.7	90.7	2.51
Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	0.41	106.0	121	0.46

平成25年度標準単価

1, 525.9円 (基準年月平成24年9月)



平成26年度標準単価

1, 549.0円 (基準年月平成25年4月)